

はじめに

フローレンス・ナイティンゲール氏誕生満200年にあたる【2020年】は看護師や医師等の医療職は勿論、地球に暮らす78億人にとって忘れる事の出来ない一年になるのは必至です！

騒がれ始めたのが2月。10か月経過した12月になってもいまだにニュースの冒頭は【新型コロナウイルス】です。

中世ヨーロッパを中心に世界の人口を半減させた【ペスト（黒死病）】は、21世紀の今日に至っても危険度最高の感染症法一類（エボラ出血熱・ラッサ熱・痘そう＝天然痘等の7疾患）扱いされているくらい、感染症はずっと人類の身近な存在であり続けています。

風邪の原因として知られているコロナウイルスは、2002年にはSARS（重症急性呼吸器症候群）また2012年にはMERS（中東呼吸器症候群）として新型コロナウイルスが見つかり、今回新たにやはり呼吸器症状を主とするものが騒ぎになっているのです。

どんな感染症でもなめてはならないのは勿論ですが、今回の新型コロナウイルス感染症に関しては明らかに騒ぎ過ぎが全世界レベルで演出されています。

感染症予防には【標準予防策】＋【経路別予防策】^{うがい}があります。

標準予防策とは【全ての人を対象にした手洗いや嗽等の基本的な対策】です。

新型コロナウイルス感染症は接触感染と飛沫感染が考えられていますので、手洗いと嗽が特に大切なのです。

また世界では年間6000万人が、我が国でも年間約138万人が死亡しています。

新型コロナが怖くないのではありませんが、もっと多くの命を奪っている【悪性新生物（＝がん）／心疾患／脳血管疾患】等の現状を客観的にかつ正しく知る事が大切なのは言うまでもありません。

この小冊子が皆様のお役に立てば幸いです。

2020年師走 編者しるす

もくじ

〈Ⅰ〉公的医療保険制度の仕組みと内容	3
・医療保険制度と自己負担	4
・自己負担の仕組み	5
・保険でカバーできる診療範囲	6
・重くのしかかる自己負担	8
・主な先進医療	9
・医療費が高額になった時	10
・通院にも使える限度額認定証	12
・高額療養費の盲点	13
・DPC(入院費包括払い制度)	14
・公的医療保険が使えない診療行為	15
・病気やケガで仕事を休んだとき	16
・出産・死亡等には一定額の支給も	17
・医療費控除	18
〈Ⅱ〉がんの再発率と5年生存率	19
・がん再発率	20
・早期のがんは治る時代です	22
・肺がんの5年生存率	23
・胃がんの5年生存率	24
・大腸がんの5年生存率	25
・子宮頸がんの5年生存率	26
・子宮体がんの5年生存率	27
・乳がんの5年生存率	28
・肝がんの5年生存率	29
・膵臓がんの5年生存率	30
・食道がんの5年生存率	30
〈Ⅲ〉主な傷病別医療費	31
・肺がん	32
・胃がん	33
・大腸がん	34
・肝がん	35
・乳がん	36
・子宮がん	37
・膵臓がん	38
・心疾患	39
・脳血管疾患	40
・糖尿病	41
・腎臓がん(通院治療)	42
・骨折	43
・妊娠中絶	44
・気になる差額ベッド料	45
・入院時食事療養費	47

がんの再発率

《いったん治っても・・・》

がんの再発

組織的に確認されたがんが治療によって臨床的に消失し、一定期間を経過した後に、同部位または近辺に再び同じ組織型のがんが発生すること。ただし、がんの再燃(ホルモン療法等で体に残っているものの休眠状態にあったがんが、再び活発に増殖に転じること)や多発がんは除外する。厳密には治療によって根絶されず耐え抜いたがん細胞が時間を経て成長し、臨床的に発見された場合が再発である。

●肺がん

・再発率（非小細胞がん・根治手術可）

	(1年)	(3年)	(5年)
I期	1%	3%	8%
II期	3%	11%	15%
III期	18%	26%	38%



※肺がんは組織の種類によって、非小細胞がん（腺がん、扁平上皮がん、大細胞がん）と小細胞がんに区別される。小細胞がんは進行が早く診断時にはほとんど転移が見られる。手術適応はほとんどない。

●胃がん

・再発率

	(1年)	(3年)	(5年)
IA期	0%	2%	5%
II期	2%	13%	15%



●子宮頸がん

・再発率

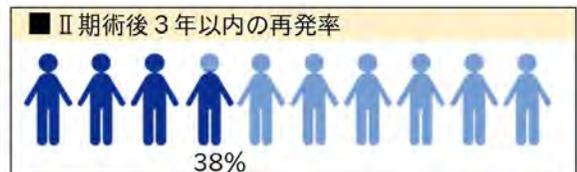
	(1年)	(3年)	(5年)
I期	0%	3%	9%
II期	4%	9%	17%



●食道がん

・再発率

	(1年)	(3年)	(5年)
I期	4%	7%	19%
II期	16%	38%	55%





乳がん

《早期では 90%の 10 年生存率》

(K大学医学部付属病院)

Stage	10年生存率	T	N	M
I 期	90.2%	T1	N0	M0
II A期	82.7%	T0	N1	
		T1	N1	
		T2	N0	
II B期	68.9%	T2	N1	
		T3	N0	
III A期	37.9%	T0	N2	
		T1	N2	
		T2	N2	
		T3	N2	
		T4	N1	
III B期	37.5%	T4	N0~N2	
IV期	6.7%	T0~T4	N0~N3	M1

●全体では70~80%

T0：原発巣を認めず

T1：大きさ \leq 2センチ

T2：2.0<大きさ \leq 5.0センチ

T3：大きさ>5センチ

T4：大きさ問わず+胸壁固室、皮膚の浮腫・潰瘍

再発時

5年生存率 49.5%

10年生存率 22.7%

© 谷 康平 / 社会医学環境衛生研究所

肺がん



概要

全年齢層で死亡率が増加しています。また、喫煙との因果関係が大きいと言われています。最近では分子標的薬の開発も進んでおり、薬物治療による生存期間も延びています。見つかったときに、すでに進行していることも多く、手術できない症例が過半数に及びます。早期発見が困難な上に、転移しやすく難治がんの代表です。小細胞がんは特に進行が速く、診断時にはほとんど転移が見られます。

症状

せきや痰、特に血痰が比較的初期に見られることもありますが、あまり目立った症状は見られません。実際に症状が出るのはかなり進行してからなので、定期検診が早期発見には重要です。

検査・治療

胸部 X 線検査、喀痰細胞診など、また近年は CT 検査により初期のがんの発見も可能になっています。外科的切除が第一選択であり、放射線治療や化学療法、免疫療法も行われますが、切除可能率が 1/4 から 1/3、そして 5 年生存率は早期では約 70% です。(I 期)

具体例

57 歳男性。喫煙歴 37 年 会社の定期健診で異常を指摘され、精密検査で肺腺がん(肺がんの 45% を占めていて最多で増加傾向)と診断される。

入院: 24 日



標準的な医療費 (患者本人の自己負担分のみ)

計 45.1 万円

(これ以外にも、差額ベッド料、寝具料、その他雑費等も必要になることがあります。)

医療費明細

〈包括評価部分〉 725,800 円

〈出来高部分〉 682,400 円

医療費合計 1,408,200 円

患者負担額 (3割) 422,460 円

食事標準負担額 29,440 円

患者負担額合計 451,900 円

事前に高額療養費の適用を申請している場合

28 万 7,702 円 (標準報酬月額 83 万円以上)

20 万 5,342 円 (標準報酬月額 53 万円~79 万円)

12 万 952 円 (標準報酬月額 28 万円~50 万円)

8 万 7,040 円 (標準報酬月額 26 万円以下)

なお、住民税非課税の人の自己負担限度額は月額 3 万 5,400 円。(別途食事費用負担額)